

R I B E N



L I S H I

华晓会 编著

新编日本历史



黑龙江大学出版社

R I B E N



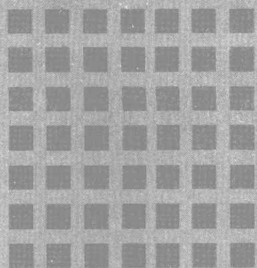
L I S H I

新編 日本書紀

卷之八

新編 日本書紀

R I B E N



L I S H I

新编日本历史

华晓会 编著



黑龙江大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

新编日本历史:日、汉 / 华晓会编著. — 哈尔滨: 黑龙江大学出版社, 2007.9

ISBN 978 - 7 - 81129 - 021 - 9

I. 新… II. 华… III. 日本 - 历史 - 日、汉 IV. K313

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 138204 号

责任编辑 王松鹤 孟庆吉

封面设计 王国良

新编日本历史

XINBIAN RIBEN LISHI

华晓会 编著

出版发行 黑龙江大学出版社

地 址 哈尔滨市南岗区学府路 74 号 邮编 150080

电 话 0451 - 86604277

经 销 新华书店

印 刷 哈尔滨工业大学印刷厂

版 次 2007 年 9 月 第 1 版

印 次 2007 年 9 月 第 1 次印刷

开 本 880 × 1230 毫米 1/32

印 张 8.125

字 数 165 千

书 号 ISBN 978 - 7 - 81129 - 021 - 9

定 价 26.00 元

凡购买黑龙江大学出版社图书,如有质量问题请与本社发行部联系调换

版权所有 侵权必究

前 言

21 世纪是跨文化交流的时代。日本是与我国一衣带水的邻国，与我国有着特殊的历史渊源。尊重历史，客观地认识古代日本、近代日本和现代日本，对中日两国的文化交流、经济贸易往来有着十分重要的意义。日语学习者可以通过学习日本历史的产生、形成、发展轨迹，清楚地认识现今日本社会文化、民族精神、国民意识形成的渊源。

本书在编写过程中，始终遵循以辩证唯物主义和历史唯物主义为指导思想，以详实客观的历史资料为依据，把历史上的政治变革作为叙述时代变迁的主线，有重点地论述了日本各个历史时期的发展特点和规律。

本书可作为普通高等学校日语专业教材，也可以作为日语专业研究生及其他日语专业人士了解和研究日本的基础读物。考虑到学习者的需要及实际条件，本书在编写过程中注意到了以下几个方面：

1. 由于日本历史的内容比较难懂，为帮助学习者尽快掌握，尽快了解各时代的主要内容，在各章节前附有中文摘要。
2. 为使学习者清楚各章的学习重点，编者在章节设计中力求重点突出，在叙述中力求简单明了。
3. 为方便学习者掌握各章的学习重点和难点，编者每章都附有各种形式的练习题，并配有答案。
4. 由于日本历史中的人物、事件、地名等用语具有历史特定读音，所以在文章中对此类词汇适当加注了“振假名”，以方便学习者顺畅阅读学习。

本书在编写过程中，广泛参考了国内外有关资料，吸收和借鉴了相关科研成果。

东北林业大学外国语学院副院长郭永刚教授参与了本书的初始构思、结构设置、材料收集、初期写作等工作。黑龙江大学东语学院院长陈百海教授为本书的出版给予了大力支持。在此谨

向郭永刚、陈百海教授表示衷心的感谢。

黑龙江大学日本学研究所副所长安成日教授在百忙之中，废寝忘食、夜以继日地对本书原稿进行了一丝不苟的认真修改。尤其是对本书的近现代部分提出了修改意见，在此谨向安成日教授表示衷心的感谢。

为了在表述上更加合乎日本人的表达方式，特聘请了东北林业大学外国语学院日籍教师福田祥子女士在日语表述方面对本书进行了全面的、精心细致的修改。在此谨向福田祥子女士表示衷心的感谢。

该书的出版得到了黑龙江大学出版社领导的大力支持，责任编辑孟庆吉在编辑过程中付出了艰辛的努力，在此一并表示感谢。

由于编者水平有限，编写时间仓促，书中难免有不妥之处，恳切希望有关专家及广大读者批评指正。

编 者

2007年8月

目 次

第一編 原始・古代	1
第一章 日本文化のあけぼの	1
★ 日本文化のはじまり	3
★ 日本古代国家の形成と発展	7
★ 古墳文化と大和国家の成立	8
★ 倭の五王と大陸文化の吸収	11
★ 練習問題	13
第二章 飛鳥時代	17
★ 推古朝と飛鳥文化	19
★ 大化改新	23
★ 律令国家の形成	25
★ 練習問題	28
第三章 奈良時代	32
★ 律令政治の展開	34
★ 奈良時代	36
★ 天平文化	38
★ 練習問題	41
第四章 平安時代	44
★ 貴族政治	46
★ 律令政治の衰退と荘園経済の発展	48

★ 武士の台頭	51
★ 平安時代の文化	53
★ 練習問題	57

第二編 中世（封建前期） 61

第五章 鎌倉時代 61

★ 鎌倉幕府の成立	63
★ 執権政治の展開	65
★ 鎌倉幕府の滅亡	67
★ 鎌倉文化	69
★ 練習問題	73

第六章 室町時代 76

★ 政権の変遷	78
★ 室町時代の経済	88
★ 室町幕府の対外関係	89
★ 室町文化	90
★ 練習問題	94

第三編 近世（封建後期） 98

第七章 江戸時代 98

★ 幕藩体制の成立	100
★ 経済の発展	105
★ 幕府体制の動揺	107
★ 江戸時代の文化	110
★ 練習問題	112

第四編 近代・現代	115
第八章 明治時代（上）	115
★ 開国と幕府の滅亡	117
★ 明治維新	121
★ 富国強兵	123
★ 自由民権運動と立憲体制の成立	127
★ 練習問題	130
第九章 明治時代（下）	134
★ 近代国家の形成	136
★ 中国・朝鮮に対する侵略と日露戦争	138
★ 近代文化の発達	142
★ 練習問題	146
第十章 第一次世界大戦と日本	150
★ 第一次世界大戦中の日本	152
★ ワシントン体制	155
★ 大戦後の階級闘争と大正デモクラシー	157
★ 近代文化の発展	159
★ 練習問題	161
第十一章 第二次世界大戦と日本	165
★ 世界大恐慌	167
★ 日本帝国主義の対外膨張	169
★ 中日戦争	174
★ 太平洋戦争と日本帝国主義の降服	176
★ 練習問題	180
第十二章 占領時期の日本	183
★ 米国の占領政策	185

★ 政治の改革	186
★ 経済の改革	188
★ 教育の改革	189
★ 占領政策の転換と経済の復活	190
★ 練習問題	193
第十三章 経済大国への日本	196
★ 政治独立から田中内閣の多角的な自主外交へ	198
★ 経済大国へ	204
★ 高度成長の結果と社会	207
★ 練習問題	209
第十四章 国際化時代への日本	213
★ 20 世紀 70 年代以来の経済安定成長期	215
★ 政治活動	218
★ 戦後の文化	220
★ 現代日本の苦悩	221
★ 練習問題	223
参考文献	227
附録一：日本歴史年表	228
附録二：皇室系表	244
附録三：総理大臣名の読み方	249

第一編 原始・古代

第一章

日本文化のあけぼの

- | | |
|------------|----------|
| ◎日本列島と日本人 | ◎縄文時代と文化 |
| ◎縄文人の生活と信仰 | ◎弥生時代と文化 |
| ◎弥生人の生活 | ◎小国の分立 |
| ◎邪馬台国と卑弥呼 | ◎古墳文化 |
| ◎大和国家の成立 | ◎倭の五王 |
| ◎大陸文化の吸収 | |

史前时代

日本考古学家一般把史前时代分为4个阶段。旧石器时代处于公元前1万多年前。日本列岛上最早的居民使用打制的各种石器，但没有陶器，也不从事固定的农业生产；绳文时代大约从公元前1万年开始至公元前3世纪为止。日本列岛上的居民以狩猎、采集、捕鱼为生，群居洞穴，使用磨制石器，并进一步发明了绘有华美花纹的陶器（土器），迈出了由蒙昧走向文明的步伐；弥生时代处于公元前3世纪至公元3世纪之间。弥生陶器是农耕文化的产物，具有精致光滑、器身薄硬、图案简朴、形趋一致的特点。中国先进的水稻种植技术和金属工具使用技术通过朝鲜传入了日本。青铜器、铁器及冶炼技术的传入，使当时的日本进入了金石并用时代，加速了日本社会生产力的发展。伴随着农耕文化的发展，礼仪、习俗、信仰等也广泛传播，形成了日本文化的雏形；古坟时代处于3世纪后期至7世纪。4世纪的大型古坟主要集中在奈良，5世纪移向大阪，到了6世纪则风光不在。这与强大的奴隶制国家——大和国（今奈良县境内）的发祥、扩张、衰落的历史正相吻合。大和国从3世纪末到4世纪初，统治范围达到了北九州和关东地方，5世纪基本统一了日本。

一、日本文化のはじまり

日本列島と日本人 今の日本は島国であるが、2～3 万年前に遡ると日本列島は大陸や東南アジアと陸続きであった。旧石器を使っていた人類は大型動物を追い、大陸から今の日本列島へ徐々に移ってきた。その後、地殻変動が起こり、海面が上昇し、一万年前にはついに大陸から切り離され、今の日本列島が誕生した。

化石人類の研究により、人類は猿人・^{えんじん}原人・^{げんじん}旧人・^{きゅうじん}新人の順に進化したことがわかっている。現在までに日本列島で発見された化石人骨は、愛知県の^{うしかわじん}牛川人など一部が旧人段階のものであると考えられるほかは静岡県^{みつ}三ヶ^び日人・^{はまきた}浜北人・沖縄県の^{みなとがわ}港川人などいずれも2万～1万年前の新人段階のものである。1949年、群馬県で打製石器が発見され、日本列島に打製石器を使用していた人類が存在し、日本にも旧石器時代があったことが明らかになった。現代日本人の直接の祖先が旧石器時代の人類であるかどうかをめぐって、いろいろな学説があるが、朝鮮半島や華南、ロシアの沿海州やシベリア、インドネシアなどから日本列島に移り住んだ混血の縄文人であるという点では皆、一致している。

縄文時代と文化 約一万年前から紀元前 3 世紀までの間は縄文時代である。縄文時代の文化の特徴は狩猟具の^{ゆみや}弓矢、煮炊き器として使っていた^{どき}土器、さらに^{ませい}磨製石器の出現などである。

この時代に用いられた土器の表面には、縄目なわめのような模様がつけられたものが多いので縄文土器じょうもんといわれ、低温で焼かれた黒ずんだ褐色かつしよくの厚手土器でもろいものが多い。また、この縄文土器の変化から縄文文化の時代は草創期、早期、前期、中期、後期、晩期に分けられる。草創期に縄文人は洞窟や岩陰に住み、狩猟中心の生活を営んだ。早期では竪穴式住居を建て、漁労が盛んになり、ごみ捨て場である貝塚かいづか①が出現した。前期では植物栽培が行われ、定住化が一層強化された。中期では環状集落が多く見られ、人口の増加が著しくなった。後期では原始農業と稲作が開始され、漆製品や装身具が多くなった。晩期では農耕具が多くなり、貧富の格差が生じた。

4

縄文人の生活と信仰 縄文人の生活はより安定し、徐々に定住生活が始まった。縄文人は地面を掘り竪穴住居たてあなを作った。このような住居が数戸ないし十戸あまりで配置され環状集落を形成した。この環状集落は「わ」というが、漢字では環、和、倭などと表す。この環状集落は古代日本の基本的な社会単位である。この社会単位は血縁の近い氏族の共同体社会で、人々は集団で力を合わせて働き、生活を守った。集団には指導者はあっても身分の上下関係や貧富の差はまだなかった。

縄文時代の人々は狩猟・漁労・採集の生活に明けくれた。縄文人は弓と矢を作り出して鹿やイノシシを狩ったり、動物の骨と角でつくった釣針・銚つりばりなどの骨角器もり こつかくきで魚や貝をとったり、野生の食用植物を採集した。住居の周りには食べかすを捨てた

①人が捕食した貝類が堆積して層をなしている遺跡をいう。

貝塚があった。この遺跡は、縄文人の当時の生活を知るうえで、貴重なものである。

生活が自然条件に左右されるところから、縄文人は自然や動植物に靈魂が存在するとして畏怖した。この時代、靈魂信仰や、成年儀礼としての^{ぼし}抜歯・女性をかたどった土偶^{どぐう}①に見られる呪術的風習が行われた。また、縄文人は死者を丁重に^{ほうむ}葬った。それらの多くが^{くっそう}屈葬されているのは、死者の靈が、生者に災をもたらすことを恐れたためと思われる。

弥生時代と文化 紀元前三世紀から、大陸の影響を受けた新しい文化が北九州を中心に発達し、徐々に東へ広がっていった。この時代の代表は弥生土器で、東京都文京区向ヶ岡の弥生で発掘されたためこの名が付けられた。弥生土器が使用されていた時代を弥生時代という。弥生時代はおよそ紀元前3世紀頃から紀元3世紀頃にあたり、600年にわたる時代であった。この時代の土器である弥生土器は縄文土器と違って、薄手で、形が整い、飾りが少ない。その種類も多く、貯蔵用の^{つぼ}壺、煮炊き用の甕、食物を盛る高つき等がある。

佐賀県^{なばたけ}菜畑遺跡、福岡県^{いたづけ}板付遺跡など西日本各地で縄文時代晩期の水田が発見され、^{すいとう}水稻耕作が始まっていたことがわかっている。紀元前3世紀初め頃には、西日本に水稻耕作を基礎とする弥生文化が成立し、やがて東日本にも広まった。こうして北海道と南西諸島を除く日本列島の大部分の地域は、食料採取の段階から食料生産の段階へと入った。

①人の形につくった土製品で、縄文時代の代表的な遺物。

弥生時代には青銅器や鉄器などが中国大陆から輸入された。金属器の導入により、日本は金石併用の時代に入った。青銅器や鉄器の中心的な役割は武器や祭器であった。日本では青銅器と鉄器がほぼ同時に使用されたが、青銅器は権威を象徴する宝器・祭具として、鉄器は武器として使われた。青銅器の多くは平形銅剣^{どうけん}、銅鉾^{ほこ}、銅鐸^{どうたく}などである。こうして弥生時代には朝鮮半島を経て大陸から多くの人々が次々に移住し、彼らが新しい技術と生活様式を伝えてきた。新しい文化が広まり、日本は急速に変容した。弥生文化は中国文化と朝鮮文化の影響を受けて生まれたものである。

弥生人の生活 弥生時代に、日本の男性は皆入れ墨をし、布をうまく身に巻きつけて服とし、女性は中央に穴をあけた布を頭から被り服とした。弥生人の主食は米で、野菜や魚介類もよく食べたが、牛や馬、羊などはまだ食べなかった。

弥生時代の農業は主に稲作であった。しかし、弥生時代初期の生産力はそれほど高くなく、木の実など植物性食料の採取にたよる比重も大きかった。籾^{もみ}を直播^{はさき}し、刃先まで木製の鋤^{すき}や鍬^{くわ}などの農具が用いられ、石包丁^{いしぼうちょう}で穂首^{ほくび}が刈り取り、収穫した。後期は鉄製工具が用いられるようになった。脱穀^{だっこく}には木臼^{きうす}・堅杵^{たて}が使用され、穀物は高床倉庫^{たかゆか}に貯蔵された。

弥生人の住居は竪穴式住居のほかに、平地式住居と高床式住居ができ、集団生活の場としての「むら」も発生した。生活が豊かになるにつれて、弥生人の墓も縄文人のそれと違うようになった。弥生人の墓はさまざまで、甕棺墓^{かめかんぼ}、支石墓^{しせきぼ}、箱式石棺墓^{はこしきせつかんぼ}、

ほうけいしゅうこうぼ

方形周溝墓等があるが、いずれも規模が小さい。また九州北部の甕棺墓のなかには三十数面もの中国鏡や青銅製の武器などを副葬したものが見られる。

弥生時代には稲作の拡大と青銅器や鉄器の導入により集団生活が始まり、身分・階級・貧富の差も生じた。弥生時代の後期になると、土地と収穫物をめぐって戦争が起こり、人間も支配するものと支配されるものに分かれ、各地に多くの小国が誕生した。

二、日本古代国家の形成と発展

小国の分立 弥生時代の後期に集落を基礎とした政治組織や小国ができた。紀元前後から、その首長は、朝鮮、さらに中国との交渉を持つようになった。1世紀に作られ、前漢の歴史を述べた『漢書』の地理志によると、日本は「倭（わ）」と呼ばれ、「倭人」の社会は百国ほどの小国に分立されていたという。

これらの小国はそれぞれ自国の政治的立場を高めるために、前漢が朝鮮半島においた楽浪郡に使者を送り中国に朝貢していた。『後漢書』の東夷伝によると、紀元57年、倭の奴国が漢の光武帝に使者を送り、光武帝から印綬を賜り、金印を与えられたと記されている。日本では1784年、今の福岡市の志賀島で「漢委奴国王」の印文をもつ金印が発見された。この金印は光武帝が奴国王に与えたものと推定される。同『後漢書』によると、2世紀の107年に別の倭の国王帥升が生口160人を中